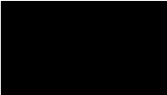


Ⅱ 指導案

学級活動（人権）学習指導案

1 年A組 22名
指導者 

1 主題 個性の尊重

2 主題設定の理由

4月、中学校生活への期待に胸をふくらませた22名の生徒と出会った。入学式では「やる時はやる、楽しむときは楽しむ」そんな学級をつくっていこうと伝え、22名の生徒と共に生活がスタートした。本学級の生徒は元気で明るく、何事にも一生懸命に取り組むことができる。小学校時代からクラス替えもなく生活しているということもあり、全体的に仲がよく、毎日楽しく学校生活を送ることができている。優しく穏やかな生徒が多く、周りの友達に対して温かい声かけをすることができる。しかし、自分の意見はもっているものの、それを伝えられない姿も見られる。その背景には固定化された人間関係の中で、「みんなと違う意見だから言わないでおう」「意見を言っても仕方がない」という気持ちをもっているからではないかと考える。また何に対しても「言われたらやる」という受け身な姿勢が積極的に自分の意見を伝えられなくしているのではないかと考えられる。そのような状況から、学級目標を「不撓不屈・一步前進～積極的に発表し、笑顔が絶えない楽しいクラスにする！！～」とし、それを達成するために「1年A組5ヶ条」を生徒自身で考えた。その中には、「積極的に自分の思いを伝えよう」という項目があり、自分の意見を積極的に伝えられないことが課題であると生徒自身も認識している。生徒を取り巻く環境の変化は著しく、今後様々な人と出会い、関わっていくことが考えられる。その中で生きていくために、常に正しい知識を得ようとする態度や、積極的に自分の思いを伝え、視野を広くもって周囲と関わっていく力を身に付けさせたい。

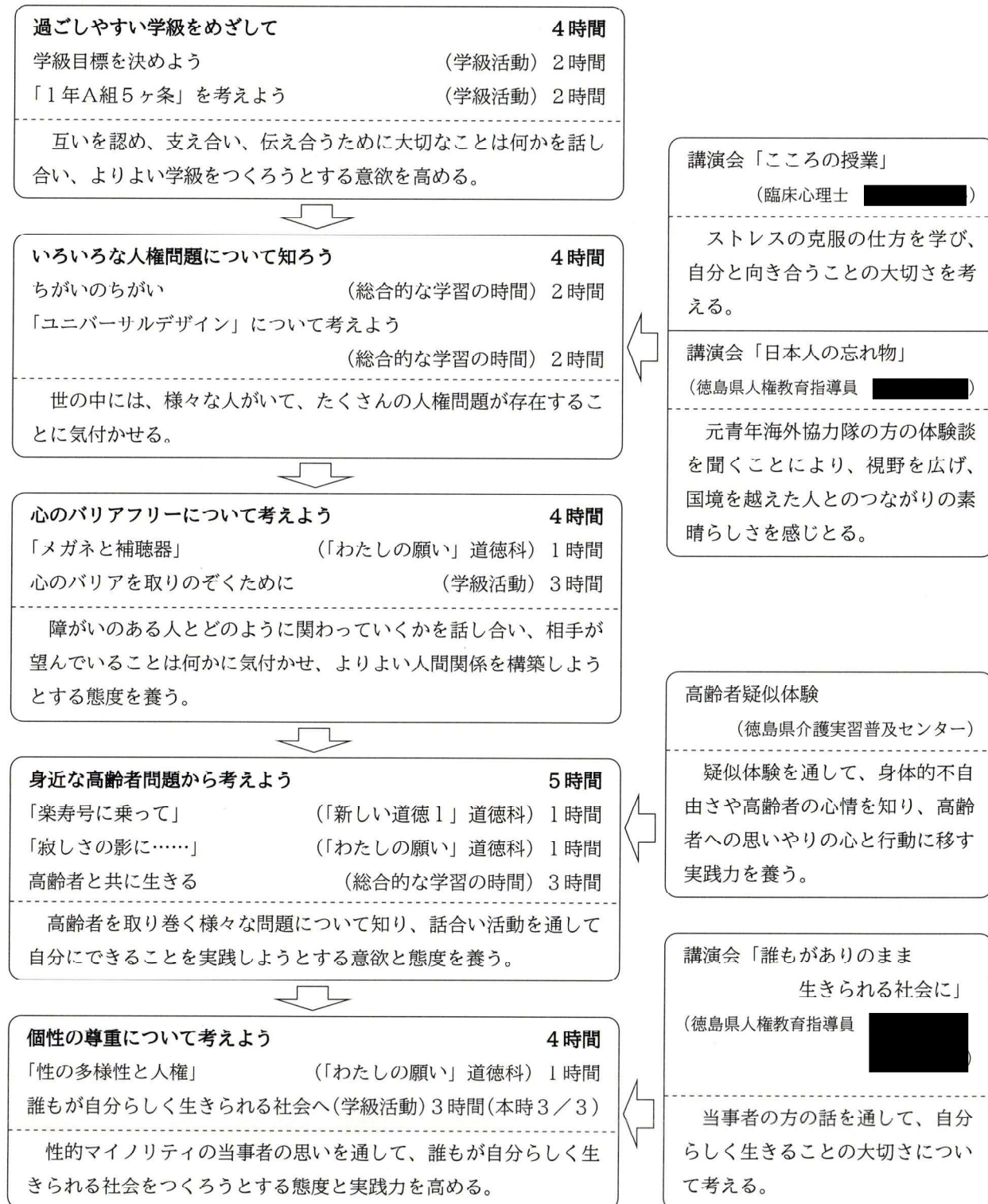
総合的な学習の時間「ちがいのちがいの」の学習では「あっていいちがいの」と「あってはいけないちがいの」について話し合う中で、生徒は世の中にはたくさんの人権問題があることに気付いた。これまでに学習した「障がい者の人権」「高齢者の人権」では、相手の状況や相手が何を望んでいるかを考えて行動することの大切さについて考えた。また、すべての授業において少人数の話し合い活動の場を設定した。最初は、グループによっては話し合いがスムーズにいかない場面も見られたが、回数を重ねるにつれ、話し合いが苦手な生徒も自分の意見を周りに伝えられるようになってきた。授業後の感想では、「これからは周りの人と助け合って生活していきたい」や、「見て見ぬふりをせず、声をかけていきます」など前向きな感想が見られた。しかし、『差別』がいつかなくなってくれたらいいな」と他人事のように考えたり、「困っていたら声をかけてあげたい」といったように「～してあげる」という表現をしたり、障がい者や高齢者を自分よりも立場を下に見ている感想も見られた。

本学習「誰もが自分らしく生きられる社会へ」では、まず性的指向や性自認などの性の多様性について正しく捉えさせたい。また、性的マイノリティの方との出会いを通して、性的指向・性自認の問題は私たちすべての人に関係していることに気付かせたい。そして、周りの人と積極的に関わり、思いを伝え合う中で、一人一人の個性を理解し、誰もが自分らしく輝ける社会をつくらうとする態度を養いたいと考え、本主題を設定した。

3 ねらい

様々な人との関わりを通して、一人一人の個性を理解し、誰もが自分らしく輝ける社会をつくらうとする態度を養う。

4 指導計画



5 本時の学習

(1) 目 標

性的マイノリティの当事者の思いから、誰もが自分らしく生きることができる社会をつくって
いこうとする意欲を高める。

(2) 普遍的な学習のテーマ

個性の尊重

個別人権課題名

性的マイノリティの人権

(3) 展 開

学習活動	指導上の留意点
1 前時を振り返り、本時の課題をつかむ。	○性には①体の性②心の性（性自認）③表現する性④好きになる性（性的指向）の4つの性があることを確認させる。
2 性的マイノリティの人がどのようなことに悩み困っているかグループで話し合い、発表する。	○講演や動画の内容から話し合い、意見を交換させる。 ○周りが理解していないことが、性的マイノリティの人を生きづらくさせていることに気付かせる。
3 これから自分にできることを発表する。	①
誰もが自分らしく生きるために、これからの自分にできることは何だろう。	
	○自分ができることを身近なところから考えさせる。 ②

(4) 評 価

- ・性的マイノリティの人がどのようなことに困っているか理解することができたか。

(知識的側面)①

- ・互いの個性やよさを認め合い、誰もが自分らしく生きることができる社会をつくろうとする意欲を高めることができたか。

(価値的・態度的側面)②